

梨本清一君 所用あり退席させていただきますが、須藤先生のお話をお聞きできないのがとても残念です。

石川友意君 5/12の家庭会合では小林満次年度幹事さんにはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

堀川正幸君 念願の新しい設備を入れることが出来ました。喜びの気持ちを入れさせていただきます。

今井克義君 BOXに。

丸山勝君 BOX協力。

山崎勲君

米山奨学会：

五十嵐茂君 神田さんのご尽力に敬意を表し一層のご努力をお願い致します。

卓 話： 「生徒を短歌に詠む」 首藤 隆司様



私の一番気に入っている歌です。「人間を学力で見る愚かさを教えく
たり夜学生の笑顔」定時制の生徒は学力にはとかく問題があっても人間的
にはいわゆる「根性良し」が多くて、「根性良し」であるが故に、なかな
か世に迎えられない。世の中でばかにされているという私としては非常に
悲しいことです。親も自分の子供を学力で見るようになって、学力のない
子供は行き場がない。学校でも学力、家庭でも学力、社会でも名もない学
校を出ているとばかにされる。実業界はあまり学校の成績は関係ないよう

に思います。学校時代は全然だめだったが非常にがんばっているという姿がたくさんあります。本当
に学力だけで生徒を見てはいけないと言うことを生徒が私に教えてくれました。

昭和34年から29年間を三条高校定時制で、昭和63年から8年間を三条工業高校で国語の教師を勤め
た。高校時代に、生きがいのある仕事をしたいと思って選んだ職業だったので、幸せな人生だったと
満足している。しかし教育の難しい時代、悩みと困難は付きまとった。

高校時代から詩を書いてきたが、30歳代に詩が書けなくなったことがあり、短歌を始めた。短歌は
瞬間的な思いを記録するのに便利だった。日々の悩みや困難、そして喜びや楽しみを短歌に詠んで来
た。

「今の若者は分らない、宇宙人だ」という説もあるが、私はそうは思わない。こちらが人間とし
て愛情を持って対すれば、人間として愛情を持って応えてくれる。生徒たちが私を教師として育てて
くれたと感謝している。

アルファベット書けぬ生徒が旋盤の腕誇る時はじめて笑う（非常に無口で風采の上がらない生徒で
した。ある時仕事のことを聞いたら旋盤の仕事をしているとにこにこして説明してくれました。後に
職場訪問したときに職場の方もこの男は旋盤に関しては天才的だ、あとはだめだがと話されていまし
た）

次々と非行事件に名のあがる生徒なりしが笑顔憎めず（笑顔だけが取り柄で叱っても叱ってもいつもにこにこしていました。社会に出てからも立派に生活していました）

家出重ね貌すさみ行く女生徒の肩ゆすりても目覚めさせたし（男の子の非行は比較的早く目が覚める。女の子は深みにはまってしまう子供は繰り返し問題を起こす）

一人一人生きてゆくことのかなしさを共に泣きたし非行少女よ（進路が狂い始めると本当にすごい姿を見せます本当に一緒に泣いてやりたいと思いました）

非行生かかえる日々は胸内に血潮したたる傷もつごとし（事件が起きると夜も眠れない日々が続きます）

家出資金我より詐取せし女生徒が土産持ちて返済に来る（夜枕元に電話をおいて何時でも出られるようにしてましたが、3日目に戻ってきて月給日に返しに来てくれました）

引き算の出来ぬ生徒を雇いくれし店主の愚痴を謹みて聞く

十七で結婚し母となる生徒に言うはただ「幸せになれ」（妊娠してしまうと男が逃げってしまう場合もある。この子は学校を辞めて結婚しました）

妊娠の噂ある生徒問い詰めずさりげなく渡す愛と性の本（女の子の友達からなんとなく情報が入り、本人に問いただしても絶対否定する）

幸せになれなくても彼について行くと女生徒言えり愛は哀しき（夏休み帰省中の大学生を好きになり着いていくことにした。典型的な転落の姿です。絶対に幸せになれないと言っても聞かない。結局3ヶ月ほどで捨てられたようですが学校には戻りませんでした）

教室に笑顔で入たしドアの前顔確かめる一瞬を持つ（教室が非常に荒れた時期でした。教室に行くのがとても怖く緊張します。緊張したまま入ると、益々教室は緊張します。その為絶対、笑顔で入ると決めていました。卒業するときに先生の笑顔が良かったと言ってくれた生徒もいました。本当に良かったと思いました）

すぐばれる嘘を重ねる生徒なれど影なき笑顔信じやりたし

我今は平気で便器に手を漬けて吸い殻拾う教師となれり（学校中吸い殻だらけです。挟むので拾うと崩れて拾えない。そっと手をいれて持ち上げるのが一番だということを発見しました。ちょっと哀しいですが定時制の教師としてベテランです）

病む母と身障の姉とを扶養して夜学に来る十五の少女（定時制に来る子供の中にはこういう子もいました）

授業後に深夜勤務のあるという生徒の居眠り起こさずにおく（周りの生徒が教えてくれることがありました）

卒業の近き生徒よそんなにもいい子になるな寂しいぞ俺は（手こずらせる生徒達が卒業が近くなるとみんないい子になって、言うことをちゃんと聞いてくれる。そうすると嬉しいと言うより寂しい。いい子になるなと言ったりしていました）

「おだてても駄目だからねと」と言いつつも生徒は授業に乗りくる嬉し（厳しさよりも優しさでは